

ご利用製品 **点呼+ (デスクトップ版)**新陽商運株式会社
降矢 康史様

茨城県神栖市砂山2668-17 14拠点 220名 460台
一般貨物自動車運送事業 他

活用している点呼制度

業務前

遠隔点呼

業務後

自動点呼

活用方法

遠隔点呼室(本社)に
管理者が常駐し、
グループ会社(複数拠点)の
遠隔点呼を全て執行。

導入ステップ

ステップ ①

デジタコによる
動態管理

ステップ ②

点呼+による
遠隔点呼

ステップ ③

点呼+による
業務後自動点呼

導入背景

- × 点呼不備の撲滅を図り、法令順守を徹底したい
- × 複数の拠点を保有しているため、拠点ごとにばらつきのある対面点呼の質に課題を感じていた
- × 人手不足の中、いかに安全な運行を徹底できるかが課題だった
- × 点呼業務が管理者の大きな負担となり、他業務に手が回らない状況が散見されていた
- × 点呼業務に対して各営業所ごとに最低3人分／日の人件費が発生していた



点呼員1日1人×13事業所——年間4,745人日のコスト削減を実現

運用上の工夫

- ✓ 遠隔点呼室の設置による役割の明確化
 - 管理者が点呼以外の業務に集中できる環境を作った
(天候・地場の状況等の安全運行に係る重要な伝達事項、
運行計画の作成/指導・監督 等)
 - 運行管理補助者をパートで雇い、遠隔点呼を執行することで人件費を最適化
- ✓ 管理者の精神的な負担を軽減
 - 管理者が直接指導しづらい内容は点呼+の「業務連絡機能」を活用し伝達することで、精神的な負担を軽減
- ✓ 点呼不備の撲滅
 - 点呼予定時間を超過した際の通知機能、また点呼予定と点呼結果を照らし合わせた確認を行い、必要に応じて該当ドライバーの指導を実施

導入効果

- ✓ 拠点間でばらつきがあった点呼方法が統一され、質の向上が実現した
- ✓ 各営業所で最低1人/日の人件費の削減を実現
- ✓ 夜間(17時～22時)および早朝(3時～8時)は遠隔点呼で対応することで、管理者の配置人数を最適化
- ✓ 管理者のデスクワーク時間が確保できるようになり、管理業務の効率化と生産性の向上を実現

取材班コメント



遠隔点呼で捻出した余力を次の一手へ。
新陽商運様は宿泊運行でも出先からタブレット等で遠隔点呼をできる体制の全社展開を目指しています。
長距離便まで負担軽減と安全強化を両立する、まさにDXの好例と言えるでしょう。